

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																																
履正社国際医療スポーツ専門学校	平成10年4月1日	池尾 忠思	〒 532-0024 (住所) 大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6305-6592																																
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																																
学校法人 履正社	大正11年4月1日	釜谷 等	〒 532-0024 (住所) 大阪府大阪市淀川区十三本町3-4-21 (電話) 06-6353-6592																																
分野	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																														
医療	医療専門課程	鍼灸学科	平成17(2005)年度	-	平成28(2016)年度																														
学科の目的	学校教育法及びはり師きゅう師法に関する法律に基づき、はり師きゅう師に必要な専門的知識及び技術を教授し、資格取得のみならず心豊かな人間性と確かな実践力を身に付けた医療人の育成と社会に貢献できる人材を送り出すことを目的とする。																																		
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	アスリートに対する実践的な実習環境における「鍼灸+AT」、「鍼灸+スポーツ=メディカルアスリート専攻」というダブルラーニング制度を利用したスポーツ分野の学びでは、医療国家資格に加えて日本スポーツ協会公認のAT(アスレティック・トレーナー)はじめトレーナーの資格取得を目指す。また、「医療+美容」分野において活躍できるような土台を作るカリキュラム「トータル美容専攻」、「鍼灸+パーソナルトレーナー」を設けることで健康な体作りに寄与できる技術を取得することも可能である。																																		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																												
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,655 単位時間 96 単位	1,335 単位時間 54 単位	330 単位時間 11 単位	180 単位時間 4 単位	0 単位時間 0 単位	810 単位時間 27 単位																												
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)	中退率	就職等の状況																														
180 人	137 人	0 人	0 %																																
	■卒業者数(C) : 35 人																																		
	■就職希望者数(D) : 35 人																																		
	■就職者数(E) : 35 人																																		
	■地元就職者数(F) : 26 人																																		
	■就職率(E/D) : 100 %																																		
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 74 %																																		
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 100 %																																		
	■進学者数 : 0 人																																		
	■その他																																		
	・就職先未決定(国家試験未取得者含む) ※該当者なし																																		
	(令和 6 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)																																		
	■主な就職先、業界等 (令和6年度卒業生) 鍼灸院、鍼灸整骨院・鍼灸接骨院、医療機関(整形外科、クリニックなど)																																		
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載																																		
当該学科のホームページURL	評価団体: - 受審年月: - 評価結果を掲載したホームページURL: -																																		
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr> <td>総授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち必修授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td> <td>単位時間</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td> <td>単位時間</td> </tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr> <td>総単位数</td> <td>96 単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数</td> <td>12 単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した演習の単位数</td> <td>3 単位</td> </tr> <tr> <td>うち必修単位数</td> <td>96 単位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数</td> <td>12 单位</td> </tr> <tr> <td>うち企業等と連携した必修の演習の単位数</td> <td>3 単位</td> </tr> <tr> <td>(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)</td> <td>1 単位</td> </tr> </table>							総授業時数	単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総単位数	96 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	12 単位	うち企業等と連携した演習の単位数	3 単位	うち必修単位数	96 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	12 单位	うち企業等と連携した必修の演習の単位数	3 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	1 単位
総授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																		
うち必修授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																		
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																		
総単位数	96 単位																																		
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数	12 単位																																		
うち企業等と連携した演習の単位数	3 単位																																		
うち必修単位数	96 単位																																		
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数	12 单位																																		
うち企業等と連携した必修の演習の単位数	3 単位																																		
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)	1 単位																																		
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>6 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>3 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他</td> <td>(専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td></td> <td>9 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <table border="1"> <tr> <td>8 人</td> </tr> </table>							① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	6 人	② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	3 人	⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計		9 人	8 人									
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者	(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	6 人																																	
② 学士の学位を有する者等	(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																	
③ 高等学校教諭等経験者	(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位	(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	3 人																																	
⑤ その他	(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																	
計		9 人																																	
8 人																																			

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

入学者の多くは、スポーツトレーナーに魅力を感じ、医療国家免許とアスレティックトレーナーの両資格を取得し、活躍したい将来目標を持っている。現実的には、医療施設で就労し、ほぼ金銭的な見返りのない副業して目標達成を行っている。大半のケースは卒後医療職に従事するので、その資質を備えた人材をアドミッションポリシー(AP)においている。ディプロマポリシー(DP)は入学動機の目標達成にむけての就職先・研修先を紹介しているが、短期離職につながるミスマッチが発生しないように紹介については配慮をしている。カリキュラムポリシー(CP)においては、AT講座の受講推奨はもちろん、4期180時間の臨床実習でも、施設や実習期間配当面接を通じ、緊密に実習先の企業等と実習教育の連携を行っている。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

医療専門課程の校務分掌に独立した外部委員会として位置付けている。当委員会からの意見や提案を各学科で検討し、実習等連携医療機関との打ち合わせ、講師派遣、インターンシップの導入などを実施している。また、今後において科学的根拠医療(EBM)の推進にあたり、外部所見や観察だけでなく、業団の学会、研修会での聴講、企業等の医療機器展示会、説明会にも学生を参加、体験させ、履修を行わせている。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名 前	所 属	任期	種別
高折 洋	医療法人山紀会 山本第一病院	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
奥田 真義	医療法人桜希会 東朋八尾病院	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
徳山 健司	公益社団法人 大阪府柔道整復師会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
田中 雅博	履正社国際医療スポーツ専門学校 副校長	内部委員	—
西村 展幸	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	—
辻井 宏昭	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	—
木下 拓真	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	—
竹中 宏	履正社国際医療スポーツ専門学校 事務長	内部委員	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「ー」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (6月、10月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月20日 14:00～15:00

第2回 令和6年10月24日 14:00～15:00

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

少子化に伴い、健全な学校運営の停滞が懸念される中で、他校との差別化要素を明確にし、総合的な学校力の強化が求められている。本校では教育のDX化を進め、これまでの教育概念に捉われない教育手法を実践していく計画である。具体的には全科目において学生主体な能動的授業をITツールと組み合わせながら実践していくことや、実技科目や解剖学など視覚的な理解を進める科目ではVR技術を用いながら実践することを計画している。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

超高齢社会の到来に向けて、入退院・入退所と在宅支援連携が重要とされている。近年は社会的な状況を鑑み、スポーツ分野における経験を育むことに加えて、企業と連携して医療介護融合活動や多職種連携の状況を経験させることで鍼灸師として高齢者の身体機能の維持改善や健康寿命の延伸に寄与できることの意義を実感させるような演習・実習を取り入れている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

地域のイベントならびにスポーツ大会等でブースを出し、参加者のコンディショニングやケアを実施することで、患者(選手)対応から評価、治療まで一連の流れを実践的に経験できる機会を設けている。これらアスリートに対するアプローチの基礎はおがた治療院によるアスレティックトレーナー学で学ぶ。また、多職種連携の実践の場として、淀川区社会福祉協議会ならびに淀川区老人福祉センターからの依頼を受けて地域の高齢者を対象として転倒防止・体力強化を主目的とした運動指導を行い、その後希望者にはコンディショニングの一つとして鍼灸治療を実施する機会を年間を通して設けている。必要となる病態評価や治療の技術の一部はゆのう鍼灸院、鍼灸院さかいの指導により習得する。

(3) 具体的な連携の例

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
アスレチックトレーナー学1 アスレチックトレーナー学2 アスレチックトレーナー学3	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	アスリートの活動・活躍に不可欠なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。スポーツ選手に起こる障害は厳しい練習などにより引き起こされ、運動器系、内臓系や免疫系の疾患と多岐にわたる。スポーツ選手をより理解するトレーナーの視点を養うことにより、治療技術を向上することを目的とする。また、スポーツ選手がどのように考え、プレーしているかを映像、画像などを駆使し理解する。そしてテーピング、マッサージコンディショニングなどの技術を身に付ける。	おがた治療院
東洋医学臨床論2	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	鍼灸治療の適用範囲である各種疾患に対し、東洋医学的側面から検討し適切な治療ができるようにする。	ゆのう鍼灸院
臨床鍼灸学1 (経絡治療) 臨床鍼灸学2 (経絡治療)	1. 【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	日本の伝統的治療法である経絡治療は、症状に対する治療だけでなく病を起こしている根本をみつけアプローチする治療である。経絡治療をする上で必要な診察方法を習得することを目的とする。東洋医学概論の内容を、実際の臨床にどのように用いて、どのように診察するのかを経絡治療の立場から理解を深める。	鍼灸院さかい

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

公益社団法人や公益財団法人が主催する学会、学術大会、研修会、オンラインセミナー、教員研修会、大専各の人権セミナー、交流会などを案内、参加を勧奨している。実習施設等の企業からのセミナーや指導者との勉強会、交流会も紹介し、受講を勧めている。また、往療費改正に関する連絡協議会や、卒業生の学会発表の聴講などについても、幅広く研修の機会を提供している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第73回 全日本鍼灸学会 学術大会	連携企業等:	全日本鍼灸学会
期間:	令和6年5月24日～26日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:つながり、通じ、いかす鍼灸～多様性の探究と連携医療への展開～ ※口頭、ポスター発表		
研修名:	第45回 東洋療法学校協会 学術大会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和6年10月10日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:Do more with less ～最小の刺激で最大の効果をもたらすあはき～ ※口頭、ポスター発表		
研修名:	第23回 東洋療法推進大会in徳島	連携企業等:	全日本鍼灸マッサージ師会
期間:	令和6年9月29日～30日	対象:	専任教員
内容	テーマ:新たな潮流・生み出す未来		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第47回 教員研修会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和6年8月8日～9日	対象:	専任教員
内容	テーマ:「不易流行:デジタル化が教育現場で多用される時代に感性を見つめ直す」		
研修名:	第29回 日本病院総合診療医学会	連携企業等:	日本病院総合診療医学会
期間:	令和6年9月7日～8日	対象:	専任教員
内容	テーマ:病院総合診療の魅力を深堀する ～多様性と連携がもたらす明るい未来～		
研修名:	第30回 日本災害医学会総会・学術大会	連携企業等:	日本災害医学会
期間:	令和7年3月6日～8日	対象:	専任教員
内容	テーマ:海とともに生きる！～伊勢湾台風復興の地で災害のこれまでとこれからを考える～		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	第74回 公益社団法人 全日本鍼灸学会学術大会	連携企業等:	全日本鍼灸学会
期間:	令和7年5月30日～6月1日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:女性のみかたⅡ ～フェムテックによる女性のWell-beingに貢献する鍼灸～		
研修名:	第46回 公益社団法人 東洋療法学校協会 学術大会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和7年9月30日	対象:	専任教員、学科学生
内容	テーマ:東洋医学から学ぶ、心の持ち方とコミュニケーション術		
研修名:	第51回 日本東洋医学系物理療法学会	連携企業等:	日本東洋医学系物理療法学会
期間:	令和8年 3月7日～8日(予定)	対象:	専任教員
内容	テーマ:未定		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	第48回 教員研修会	連携企業等:	東洋療法学校協会
期間:	令和7年8月7日～8日	対象:	専任教員
内容	テーマ:変化する社会とスポーツの力 ～現場と鍼灸教育の連携による次世代への架け橋～		
研修名:	第20回 公益社団法人 日本鍼灸師会 全国大会 in いばらき	連携企業等:	公益社団法人 日本鍼灸師会
期間:	令和7年10月4日～5日	対象:	専任教員
内容	求められる鍼灸・求める鍼灸 ～鍼灸と緩和ケアのコラボレーションを茨城から発信！！～		
研修名:	第36回 日本疫学会学術総会 国際疫学会西太平洋地域合同大会	連携企業等:	日本疫学会
期間:	令和8年1月28日～30日	対象:	専任教員
内容	Epidemiology and Global Issues:Addressing Diversity,Complexity, and Inclusion		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1)学校関係者評価の基本方針

学校関係評価者として医療経営者、医療従事者、スポーツ指導者、医療機器業者などの企業から、学校を取り巻く環境すべての面で意見と評価を受けている。医療関係者の企業様と共に学校関係者評価委員会を設置し当該専門科目における実務に関する知見を活かして、教育目標や教育環境等について評価し、その結果を次年度の教育活動及び学校運営改善の参考とする。学校関係者評価は「私立学校専門学校等評価機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した。自己点検・自己評価の結果を基に「専門学校における学校評価ガイドライン」に則り実施することを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	(1)教育理念・目標
(2)学校運営	(2)学校運営
(3)教育活動	(3)教育活動
(4)学修成果	(4)教育成果
(5)学生支援	(5)学生支援
(6)教育環境	(6)教育環境
(7)学生の受入れ募集	(7)学生の受入れ募集
(8)財務	(8)財務
(9)法令等の遵守	(9)法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	—
(11)国際交流	—

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会における、自己点検・自己評価の意見と提案を基に振り返りを行っている。特に要改善に該当する項目に関しては、学科ごとに小項目ごとの調査を行い、改善を図っている。昨年度、学校関係者評価委員会より①実技スペースの充実化、②自己学習スペースの充実化に関して指摘をいただいている。これを受け、授業が実施されていない普通教室ならびに実技室を自学自習スペースとして開放、さらには「団の間」「黙の間」と称して、グループでの学習ができる環境を整備するだけでなく、質疑応答に応えられるよう教員を配置している。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和7年7月31日現在

名前	所 属	任期	種別
安村亮	ラックヘルスケア株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
川上晃司	スポーツインテリジェンス株式会社	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業委員
野柳俊英	やなぎ整形外科クリニック	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
中谷功	なかたに鍼灸整骨院	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
清行康邦	公益社団法人全日本鍼灸学会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	学識有識者
荻原嘉彦	ハギーコーポレーション	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	業界委員
池尾忠思	履正社国際医療スポーツ専門学校 校長	内部委員	参加者
田中雅博	履正社国際医療スポーツ専門学校 副校長	内部委員	参加者
西村展幸	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	参加者
辻井宏昭	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	参加者
木下拓真	履正社国際医療スポーツ専門学校 学科長	内部委員	参加者
竹中宏	履正社国際医療スポーツ専門学校 事務長	内部委員	参加者

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.riseisha.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 令和6年11月28日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

当該委員会は、第三者的立場から評価・提言を得られる、重要な組織体であると認識している。当該委員会からの評価・提言は、本校の客観的強みや改善点など、新たな気づきの発見に繋がることから、本校学校運営に関わるあらゆる情報提供が必要であると考えている。また、医療・介護施設のみならず多分野に就職する学生を抱える専修学校という立場から、社会で必要とされる人物像や能力に関わる情報は、学校教育の変更に直結することから、企業等との連携・協力の推進を積極的に進めるものである。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	学校案内
(2)各学科等の教育	学科紹介
(3)教職員	先生紹介
(4)キャリア教育・実践的職業教育	体験型学習のススメ
(5)様々な教育活動・教育環境	十三キャンパス
(6)学生の生活支援	学生の一日、就職先・キャリアアップ
(7)学生納付金・修学支援	納付金のご案内
(8)学校の財務	情報公開(財務)
(9)学校評価	情報公開(学校関係者評価)
(10)国際連携の状況	-
(11)その他	-

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <http://www.riseisha.ac.jp/>

公表時期: 令和7年7月31日

授業科目等の概要

	(医療専門課程 鍼灸学科)										企業等との連携				
	分類			授業科目名	授業科目概要			配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所	教員
	必修	選択必修	自由選択		講義	演習	実験・実習・実技				校内	校外	専任	兼任	
1	○			心理学1	臨床場面における心理学的視点を学ぶことで、対人援助職従事者としての心構えや患者との関係性の理解を深める。			2前	30	2	○		○		○
2	○			心理学2	スポーツを行う際のパフォーマンスは心理的状態に影響を受けている。そのため、心理学知見を学び、新たなスポーツ観を身につける。			2後	30	2	○		○		○
3	○			栄養学1	消化・吸収された栄養素の体内での変化や役割を理解し、どのような食品に栄養成分が含まれているのかを知り、食事と健康の維持・増進、疾病の予防・治療との関連を理解する。			1前	30	2	○	△	○		○
4	○			栄養学2	各栄養素の生理作用とそれらを含む食品についての理解を深めるとともに科学的根拠に基づき、スポーツ選手に必要なエネルギーや栄養量、栄養摂取方法の基本を理解する。さらに生活習慣病予防・改善のための効果的な運動と栄養素に関する知識を身につける。			1後	30	2	○	△	○		○
5	○			アスレチックトレーナー学1	アスリートの活動・活躍に不可欠な生命的なエネルギーと、骨・筋・神経・関節周囲の軟部組織の機能や構成を再確認し、最高のパフォーマンスが発揮できる能力を解剖学的アプローチから理解する。			1後	30	2	○	△	○	○	○
6	○			アスレチックトレーナー学2	スポーツ選手に起こる障害は厳しい練習の繰り返しにより引き起こされ、運動器系、内臓系や免疫系の疾患があり多岐にわたる。スポーツ選手をより理解するトレーナーの視点を養うことにより、治療技術を向上することを目的とする。			2前	30	2	○	△	○	○	○
7	○			アスレチックトレーナー学3	スポーツ選手がどのように考え、過ごし、プレーしているかを映像、画像などを駆使し理解させる。テーピング、マッサージジョンディングなどの技術を身に付ける。			2後	30	2	○	△	○	○	○
8	○			解剖学1 (総論・体表解剖)	医学を学習する上で最も基本となる正常な人体構造を系統的に学習する。特に総論では、人体の構成の基礎となる細胞や組織、体表面から見た解剖について学ぶ。			1前	30	2	○		○		○
9	○			解剖学2 (骨学)	鍼灸治療をする上でもっとも重要な部位である筋肉の走行を理解する前に、その付着部である骨を理解する。骨を理解することは筋肉を触診、経穴の取穴する上でランドマーク(目印)になるので骨をしっかり理解する。			1前	30	1	○		○		○

	(医療専門課程 鍼灸学科)			授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携				
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技							
										校内	校外	専任	兼任				
10	○			解剖学3 (筋学)	1後	30	1	○			○		○				
11	○			解剖学4 (脈管学)	1前	30	1	○			○		○				
12	○			解剖学5 (内臓学)	1後	30	1	○			○		○				
13	○			解剖学6 (神経学)	1後	30	1	○			○		○				
14	○			生理学1	1前	30	1	○			○	○					
15	○			生理学2	1後	30	1	○			○	○					
16	○			生理学3	1前	30	1	○			○	○					
17	○			生理学4	1後	30	1	○			○	○					
18	○			運動学	2前	30	1	○			○		○				

分類	(医療専門課程 鍼灸学科)			授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携			
	必修	選択必修	自由選択				講義	演習	実習・実習・実技						
									校内	校外	専任	兼任			
19	○			病理学概論1	2前	30	1	○		○		○			
20	○			病理学概論2	2後	30	1	○		○		○			
21	○			衛生学・公衆衛生学1	1前	30	1	○		○	○				
22	○			衛生学・公衆衛生学2	1後	30	1	○		○	○				
23	○			臨床医学総論1	2前	30	1	○		○	○				
24	○			臨床医学総論2	2後	30	1	○		○	○				
25	○			リハビリテーション医学1	3前	30	1	○		○	○				
26	○			リハビリテーション医学2	3後	30	1	○		○	○				
27	○			臨床医学各論1	2前	30	1	○		○		○			
28	○			臨床医学各論2	2後	30	1	○		○	○				

分類	(医療専門課程 鍼灸学科)			授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携			
	必修	選択必修	自由選択				講義	演習	実習・実習・実技						
									校内	校外	専任	兼任			
29	○			臨床医学各論3	3前	30	1	○		○	○				
30	○			臨床医学各論4	3後	30	1	○		○		○			
31	○			医療概論	1前	30	1	○	△	○	○				
32	○			関係法規	3後	30	1	○		○	○				
33	○			社会保障制度・職業倫理	1前	15	1	○		○	○				
34	○			東洋医学概論1	1前	30	1	○		○		○			
35	○			東洋医学概論2	1後	30	1	○		○		○			
36	○			東洋医学概論3	2前	30	1	○		○		○			
37	○			東洋医学概論4	2後	30	1	○		○		○			
38	○			経絡経穴概論1	1前	30	1	○		○	○				

分類	(医療専門課程 鍼灸学科)			授業科目概要	配当年次・学期	授業時間数	単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携				
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技							
								内	外	校内							
39	○			経絡経穴概論2	1後	30	1	○			○	○					
40	○			経絡経穴概論3	2前	30	1	○		△	○	○					
41	○			経絡経穴概論4	2後	30	1	○		△	○	○					
42	○			はりきゅう理論	3後	30	1	○			○	○					
43	○			東洋医学臨床論1	2前	60	2	○		△	○	○					
44	○			東洋医学臨床論2	2後	60	2	○		△	○	○	○				
45	○			東洋医学臨床論3	3前	60	2	○		△	○	○	○				
46	○			東洋医学臨床論4	3後	60	2	○		△	○	○					
47	○			臨床鍼灸学1 (経絡治療)	3前	30	1	△		○	○	○	○				
48	○			臨床鍼灸学2 (経絡治療)	3後	30	1	△		○	○	○	○				

	(医療専門課程 鍼灸学科)			授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携						
	必修	選択必修	自由選択				講義	演習	実習・実習・実技									
				生体観察														
49	○			鍼灸師にとってランドマークの触知や筋の緊張度をツボの反応として触察することは必須である。これらを正確に実施するために必要な触察技術を実技を中心に学ぶ。	1後	30	1		○	○	○							
50	○			鍼灸臨床で遭遇するさまざまな疾患においてみられる症状について、そのメカニズムを解剖学、生理学の知識をもとに理解し、他人に発表・説明できることを目的とする。	2後	30	1	△	○	○	○							
51	○			鍼灸臨床において病態把握に必要な徒手検査について学ぶ。	2後	30	1	△		○	○	○						
52	○			鍼灸院に来院される高齢者を医学的、社会的にとらえ、鍼灸師としてどのように関わっていくべきか考えられるようにする。また、様々な分野の疾患について研究報告等を交えながら学ぶことによってさらなる理解を深める。	3前	30	2	△	○	△	○	○						
53	○			消毒操作、リスク管理（過誤・副作用）の知識を学んだ上で、鍼を刺入するという一番基礎的な技術を何度も基礎練習を繰り返し身に付ける。	1前	60	2	△		○	○	○						
54	○			解剖学的な経穴部位の知識を十分理解した上で、リスク管理をしながら、各経穴・各部位への刺鍼技術を身に付ける。	1後	60	2	△		○	○	○						
55	○			灸術を理解し、適切な消毒法を含む施術順序・手技を修得し、人に対し施術することができるよう、基礎知識・基礎技術を学ぶ。	1前	30	1	△		○	○	○						
56	○			様々な灸法を理解し身に付けた上で、人への施術や、難しい部位への施灸技術を身に付ける。	1後	30	1	△		○	○	○						
57	○			特殊鍼法（皮内鍼、円皮鍼、小児鍼、接触鍼、灸頭鍼）、低周波鍼通電刺激などを学ぶ。また教科書以外からも運動鍼、頭鍼など臨床で使用されている手技を身に付ける。	2前	30	1	△		○	○	○						
58	○			西洋医学的診察内容（関節可動域測定（ROM）、徒手筋力検査（MMT）、血圧測定、反射検査（深部腱反射・病的反射・表在反射）、感覚検査）を理解・習得し、身体各部位（主要な関節）の評価を行う。	2前	60	2	△		○	○	○						

分類	(医療専門課程 鍼灸学科)			授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携			
	必修	選択必修	自由選択				講義	演習	実験・実習・実技						
							内	外	校内						
59	○			はりきゅう 実践実習2 (西洋医学系2)	2後	30	1	△	○	○	○				
60	○			はりきゅう 実践実習3 (西洋医学系3)	3前	60	2	△	○	○	○				
61	○			はりきゅう 実践実習4 (東洋医学系)	2後	30	1	△	○	○	○				
62	○			はりきゅう 実践実習5 (東洋医学系)	3前	30	1	△	○	○	○				
63	○			はりきゅう 臨床実習前教育	2前	30	1	△	○	○	○				
64	○			はりきゅう 総合実習	3後	30	1	△	○	○	○				
65	○			臨床実習 1	1前後	45	1		○	○	○				
66	○			臨床実習 2	2前後	45	1		○	○	○				
67	○			臨床実習 3	3前後	90	2		○	○	○				
68	○			総合演習1	2後	30	1		○	○	○				

(医療専門課程 鍼灸学科)				授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所	教員	企業等との連携				
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技							
69	○			総合演習2	総合演習1の卒業研究を引き続き行ない、実際に論文作成と論文発表を行なう。そして能動的で応用力のある鍼灸師を育むことを目的とする。	3前	30	1	○		○	○					
70	○			総合演習3	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。	1前後	30	1	○		○	○					
71	○			総合演習4	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。	2前後	30	1	○		○	○					
72	○			総合演習5	様々な学校行事や学外セミナーに参加することで鍼灸師として必要な人間性・素養を見つめなおし、身に付けることを目的とする。	3前後	30	1	○		○	○					
73	○			医学演習1	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『解剖学』の復習や演習を中心に授業を行う。	3前	30	1	○		○	○					
74	○			医学演習2	生理学や病理学などで人体の仕組みなどの知識を深めてその知識を使用し、整形外科疾患やリウマチ膠原病疾患のみならず様々な疾患の病態を理解する能力を持つことを目標とする。	3前	30	1	○		○	○					
75	○			医学演習3	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『東洋医学概論』の復習や演習を中心に授業を行う。	3後	30	1	○		○	○					
76	○			医学演習4	国家試験に合格できる学力レベルに到達するだけではなく。生理学や病理学などで人体の仕組みなどの知識を深めてその知識を使用し、整形外科疾患やリウマチ膠原病疾患のみならず様々な疾患の病態を理解する能力を持つことを目標とする。	3後	30	1	○		○	○					
77	○			医学演習5	自ら学ぶ習慣を身に付け、各学年で行われている科目の理解を高めるため『臨床医学総論』の復習や演習を中心に授業を行う。	3後	30	1	○		○	○					
78	○			医学演習6	模擬試験などを実施し、定期的に学習進行状況を確認しながら卒業・国家試験に向けて自らに課された弱点を解消することを目的とする。	3前後	30	1	○		○	○					
合計						78	科目		96		単位						

(医療専門課程 鍼灸学科)			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法		場所	教員	企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技		
卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件	卒業要件
履修評価	履修評価	履修評価	履修評価	履修評価	履修評価	履修評価	履修評価	履修評価	履修評価	履修評価	履修評価	履修評価

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合
については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。